

国際常民文化研究機構第3回公開研究会  
和歌森太郎の民俗学—民俗総合調査を中心に—

## I. 和歌森太郎の業績—歴史と民俗の構図—

### 1. 和歌森太郎（1915-1977）の位置づけ

- ・民俗学のアカデミズム化に寄与した大学人（ex.東京教育大学教授）
- ・歴史学の立場から民俗研究を進めた研究者
- ・柳田国男に接した世代（ex.財団法人民俗学研究所同人）



歴史学者として、柳田が構想する民俗学から何を学び、和歌森自身の研究をどう展開させたのか？

### 2. 和歌森による民俗学の概説書

『日本民俗学概説』（1947年）：民俗史学の標榜（民俗の歴史的変遷の解明）  
『日本民俗学』（1953年）：歴史学と民俗学の峻別（日本人の心性の把握）  
『新版日本民俗学』（1970年）：文中に「歴史」の語が復活

} 各々主張が違う。  
[桜井 1981]

### 3. 『日本民俗学概説』のなかの民俗の分類・調査・記述

民俗分類： サンチーブの分類案を参考にして、経済人的伝承・社会人的伝承・文化人的伝承  
調査方法： インテンシブな調査（『日本民俗学』では民俗調査はエクステンシブであると解説）  
民俗の記述：経済→社会→信仰の流れで記述

### 4. 和歌森の主著（論文集を除く）

『修験道史研究』（1943年）→卒論  
『国史に於ける協同体の研究 上巻—族縁協同体—』（1947年）→学位請求論文前編  
『中世協同体の研究』（1950年）→学位請求論文後編  
『美保神社の研究』（1955年）→文部省国民精神文化研究所員時代に行った民俗調査のモノグラフ（昭和17～19,23年）



現前の民俗から時代相を見出す分析（和歌森が捉える時代とは時間区分ではなく社会構造概念のこと。今ある民俗から古代・中世・近代の特質を指摘しようとする。）

## II. 民俗総合調査の概要

### 1. 民俗総合調査とは？

1958～1967年にかけて文部省科学研究費交付金（総合研究）の交付を受けて行われた、東京教育大学教官らを中心とする共同民俗調査。初期の目標は、9ヶ年を現地調査に充て、最終年に総括するという10ヶ年計画。国東半島・宇和地帯・西石見・美作・淡路島・志摩地方・若狭地方・陸前北部・津軽で行われた。

## 2. 調査人員 (表1)

民俗総合調査団 { 東京教育大関係者 (民俗学に関わる教員)  
地元の研究者 (教員・文化財専門委員・県職員)  
学生 (民俗学に関心をもつ学生)

主要メンバー： 和歌森太郎 (団長)・竹田旦 (幹事長)・亀山慶一・北見俊夫・千葉徳爾・直江広治・西垣晴次・萩原竜夫・松岡利夫・宮原兎一 (以上10回参加)、市原輝士・桜井徳太郎 (以上9回参加)。

## 3. 調査体制

- ① 東京教育大に調査団本部、調査地に現地本部を置き、調査体制等を整える。
- ② 予備調査：団長 (和歌森) と幹事長 (竹田) を中心に関係諸機関への挨拶と調査協力の依頼。
- ③ 本調査：10日程度、それぞれテーマ別の班に分かれて調査地域を回る。
- ④ 補充調査：基本的に各自で行動。
- ⑤ 本調査後、報告会を開いて討論後、各自調査報告書を作成する。

## 4. 調査目的および調査地選定理由 (表2)

### 昭和33年度「模式的文化圏としての国東半島における民俗構造の総合的研究」

- ・模式的文化圏としての民俗調査。
- ・国東半島＝山岳仏教に支えられた特異な民俗相＋中央との文化交流による古風な民俗相。  
[竹田 1960:374]

### 昭和34年度「西日本民俗文化圏における宇和地帯の地位の研究」

- ・国東半島とつかず離れずの位置にあり、西日本民俗文化圏の一環を構成する地。
- ・古風な習俗が残されているといわれながら組織的な調査が行われていない。  
[竹田 1961:371]

### 昭和35年度「西石見民俗の総合調査研究」

- ・西日本民俗文化圏の一環を構成する地域として、九州国東半島と四国宇和地帯を調査したからには、次回は中国地方西部で、次第に東進しようという気運が起こる。
- ・山口大の松岡利夫が熱心に誘致。
- ・山陽側に適当な候補地が見当たらないため山陰側を検討。組織的な調査が行われておらず、調査地域が歴史的にも地勢的にもまとまっていて、民俗・文化の特色を容易に把握でき、現地本部の体制が整っていることなどの条件によって選定。  
[竹田 1962:400]

### 昭和36年度「山陽・山陰における民俗文化交流の総合調査研究」

- ・前年度調査地が山陰側だったのを受けて、次は山陽側に選定し、「山陰・山陽の民俗相の比較を通じて、民俗文化交流の態様を探ろう」とした。
- ・広島県三次盆地も候補地として挙げたが、現地受け入れ態勢に難点あり。  
[竹田 1963:465]

### 昭和37年度「民俗文化圏における淡路島の調査研究」

- ・前回調査地よりも東方地域が第一条件。
- ・団員のなかから兵庫県但馬地方、高知県室戸半島などの意見が出たが、進展を見せず。和歌森が淡路島を提唱し、有力候補地として検討される。
- ・「この島がいわば近畿圏に属しながらも、山陽と四国の交点にある地理的位置は大いなる魅力」  
[竹田 1964:422]

### 昭和38年度「志摩地方民俗の調査研究」・昭和39年度「若狭民俗の歴史的位相の研究」

- ・調査地をさらに東に進め、近畿・中部両地方の境界あたりに団員より複数候補地が挙げられ、竹田且らが提唱する志摩地方と、萩原竜夫らが推薦する若狭地方が有力候補地となる。観光地化の激しい志摩地方から着手。
- ・急速に民俗の衰退の懸念されるところで、しかも古俗を少なからずとどめ、全般的に民俗の変遷を追及するのにふさわしい地域。

[竹田 1965:384]

### 昭和40・41年度「東北型民俗の調査研究」

- ・九州から始めて東北で終わりたいという希望があり、中部・関東を飛ばして東北に移ろうとすることで意見が一致。10ヶ年計画で、残り2ヶ所は東北南部の太平洋側と、東北部の日本海側に選定。

[竹田 1969:397]

### 昭和42年度「民俗の地域性と歴史性」

- ・津軽民俗の歴史性や地域性を究めるためには、調査地を津軽半島より広げる必要。
- ・10年目の企画である総括・展望のモデル調査地域として津軽地方に充てた。

[竹田 1970:427]

## III. 調査計画の変遷—文化圏から地域性・歴史性へ—

### 1. 2つの調査目的

- ① 文化圏・文化交流への関心（くにさき・宇和・西石見・美作・淡路島）
- ② 民俗の地域性と歴史性への関心（志摩・若狭・陸前北部・津軽）

### 2. 調査団長（和歌森）が考える民俗調査

和歌森太郎「I 総説 第1章 国東半島調査の問題と意義」（『くにさき』）から  
民俗調査

- ・民俗学は歴史の進み方は全国どこでも同じようには進まないという前提に立つ。
- ・遺習を比較研究しながら、古い時代に支配的であった生活の傾向を探る。
- ・中央的な文化の波及が遅れた離島や半島地域で資料を収集。→ 文化圏・文化交流の発想

#### 民俗調査と歴史学との関係

- ・民俗学は、現在の民俗から古代史を復元するわけではない。民俗が持つ種々の型を歴史的に位置づけ、中世・近世・近代化の過程をたどる目安にする。
- ・民俗が古代から近代へと到るあいだの歴史的条件を調べるのは歴史学者の仕事。
- ・民俗資料はあらためて歴史的な手法をもって、地方史を明らかにする際の手がかりにする。→ 成果報告書のスタイルに反映

### 3. 成果報告書のスタイル

#### 成果報告書刊行の意義

- ・地方史研究は民俗学のたすけを借りる傾向にあるものの、現在、その民俗資料は地域性と切り離されている状態。そこで民俗事象が伝承されている地域の諸条件と絡めて資料を提示。その一方、全国的視野のもとに個別地域の民俗の意味も理解できるよう、ひろく調査を進める。[和歌森 1960a]
- ・「生みの資料を忠実に記述して、何冊かの報告書を積み重ねた後の比較検討に支障ないように」した。[和歌森 1962a:2]

#### 4. 民俗総合調査への批判と対応

##### 調査報告書に対する当初の批判

- ・「事実の羅列だけには少々閉口した」[渡辺澄夫 1960:118]
- ・分析の不十分さ。サンプルの取り方と用語の不正確さ。[鈴木満男 1963]
- ・他地域との比較によるこの地帯の民俗の位置づけがなされていない。[杉山晃一 1963]

##### 批判後の調査研究態度の修正

- ・『西石見の民俗』以降、複数の調査団員が分担して調査地域の歴史的前提と地域的特色についての概要を記すようになる。
- ・「私たちは、民俗調査のさい歴史の探究にも並行して進むという仕方をとってきたのだが、今思えばこれは並行してなすべきでなく、本書の構成において示したようにあくまでも前提として歴史をおさえた上で、民俗調査にかかるべきだった。」[和歌森 1963a:2]

##### その後の批判

- ・各自分担テーマごとに資料を提示しているが、重複している資料もある。共通の村落で同時的共同調査をし、分析を加えることで明らかになることもあるのでは？[坪井 1963]
- ・各自分担テーマに関する民俗資料を数多く集めようとするあまり、該当する民俗資料がない村において、なぜないのかという点の考察が欠けている。[竹田 1967]

#### 5. 隣接諸科学への対応による民俗総合調査の方針転換

- ・民俗総合調査開始当初→ 地方史研究との接続および民俗の比較研究のための資料提供を志向。
- ・歴史学からの批判 → 民俗資料の歴史的・地域的性格の分析の要求。
- ・人類学からの批判 → 民俗の相互関連についての分析の要求。

↓

- ・民俗総合調査終盤の調査研究態度

「私たちの民俗総合調査では、現実に展開する民俗の伝承態を、その由って来たる歴史的な性格と、現に伝承として受けとめる地域的条件とのからみ合いのもとに把握しようとするところに基本的態度がある。」[和歌森 1969a:1]

「各地域において歴史性・地域性の解明にもとづいて浮かびあがるはずの民俗文化の型は、究極において日本民俗文化の型として総合されることが予測される。」[同上]

## IV. 民俗総合調査における和歌森の報告

### 1. 和歌森の報告

- ・調査団のなかで歴史調査の班に所属
  - 「国東民俗の鳥瞰」→ 国東半島の民俗概観。
  - 「問題の所在」→ 宇和地方の地方史研究の成果をまとめる。
  - 「西石見民俗の地域性・歴史性」→ 西石見の民俗の地域性については他地域と比較して解説し、歴史性については当地の歴史知識を参照しながら解説する。
  - 「美作民俗の問題」→ 美作の民俗を、当地の地理・歴史知識を参照しながら解説。
  - 「淡路民俗の歴史的背景」→ 淡路島の地方史研究の成果をまとめる
  - 「志摩民俗の歴史的条件—九鬼氏の支配まで—」→ 志摩の地方史をまとめる。
  - 「歴史の中の若狭民俗」→ 若狭の地方史研究の成果をまとめる。
  - 「修験道の浸透」→ 仙北修験の過去のあり方を考察。
  - 「津軽民俗の歴史性」→ 巫呪の特徴を挙げ、その特徴が現れるに至った歴史的条件と津軽社会の特徴を考察。

## 2. 和歌森の報告の特徴

- ・民俗事象どうしを直接比較して論ずることをしない。
- ・個別の民俗事象を、大きな文化圏あるいは過去の社会状況のなかに位置づけて、その関係の論理構造を仮設提示。→ 民俗を支える歴史的条件について常に考えていた。



ただし、資料を分析した結果判明した歴史を描いているわけではない。歴史は所与として存在。

## V. 民俗総合調査からみる民俗資料の分析方法

### 1. 共同調査の利点

- ・各自が聞き取ったデータの突合せ
- |   |               |
|---|---------------|
| { | 資料の客観性の確保     |
|   | 比較分析への契機      |
|   | 調査者が備える視点の自覚化 |

### 2. 民俗資料の分析法

- ① 異なる地域間における同一民俗事象の比較分析
- ② 一定地域内における異なる民俗事象の比較分析
- ③ 一定地域内における同一民俗事象の分析



③の方法は、現在の民俗の諸特徴を析出し、それらを歴史的背景のなかに位置づけてさらに考察するという2段階方式。→ 和歌森太郎の歴史民俗学

### 3. 和歌森の研究方法の限界

- ・民俗資料の比較分析をしないので、個別民俗事象の諸特徴を析出する術をもたない。
- ・参照する歴史叙述そのものは歴史学者に委ねており、その歴史叙述が立ち現れる政治的・社会的背景に対する考察を欠いている。

## 参考文献

- 桜井徳太郎 1981「解説Ⅱ 和歌森民俗学の形成と展開」『和歌森太郎著作集』第9巻 弘文堂
- 鈴木満男 1963「書評 和歌森太郎編『くにさき—西日本民俗・文化における地位—』」『民族学研究』27-2
- 杉山晃一 1963「書評 和歌森太郎編『宇和地帯の民俗』」『民族学研究』27-2
- 竹田且 1960「4. あとがき」和歌森太郎編『くにさき 西日本民俗文化における地位』吉川弘文館
- 竹田且 1961「2. あとがき」和歌森太郎編『宇和地帯の民俗』吉川弘文館
- 竹田且 1962「3. あとがき」和歌森太郎編『西石見の民俗』吉川弘文館
- 竹田且 1963「4. あとがき」和歌森太郎編『美作の民俗』吉川弘文館
- 竹田且 1964「4. あとがき」和歌森太郎編『淡路島の民俗』吉川弘文館
- 竹田且 1965「2. あとがき」和歌森太郎編『志摩の民俗』吉川弘文館

- 竹田旦 1969 「3. あとがき」和歌森太郎編『陸前北部の民俗』吉川弘文館
- 竹田旦 1970 「2. あとがき」和歌森太郎編『津軽の民俗』吉川弘文館
- 竹田聴洲 1967 「書評・紹介 和歌森太郎編 若狭の民俗」『民俗学評論』2
- 坪井洋文 1963 「書評 和歌森太郎編『美作の民俗』」『民族学研究』27-4
- 和歌森太郎 1943 『修験道史研究』河出書房
- 和歌森太郎 1947 『国史に於ける協同体の研究 上巻一族縁協同体一』帝国書院
- 和歌森太郎 1947 『日本民俗学概説』東海書房
- 和歌森太郎 1950 『中世協同体の研究』弘文堂
- 和歌森太郎 1953 『日本民俗学』弘文堂
- 和歌森太郎 1955 『美保神社の研究』弘文堂
- 和歌森太郎 1960a 「序」和歌森太郎編『くにさき 西日本民俗文化における地位』吉川弘文館
- 和歌森太郎 1960b 「国東半島調査の問題と意義」和歌森太郎編『くにさき 西日本民俗文化における地位』吉川弘文館
- 和歌森太郎 1960c 「国東民俗の鳥瞰」和歌森太郎編『くにさき 西日本民俗文化における地位』吉川弘文館
- 和歌森太郎 1961 「問題の所在」和歌森太郎編『宇和地帯の民俗』吉川弘文館
- 和歌森太郎 1962a 「序」和歌森太郎編『西石見の民俗』吉川弘文館
- 和歌森太郎 1962b 「西石見民俗の地域性・歴史性」和歌森太郎編『西石見の民俗』吉川弘文館
- 和歌森太郎 1963a 「序」和歌森太郎編『美作の民俗』吉川弘文館
- 和歌森太郎 1963b 「美作民俗の問題」和歌森太郎編『美作の民俗』吉川弘文館
- 和歌森太郎 1964 「淡路民俗の歴史的背景」和歌森太郎編『淡路島の民俗』吉川弘文館
- 和歌森太郎 1965 「志摩民俗の歴史的條件—九鬼氏の支配まで—」和歌森太郎編『志摩の民俗』吉川弘文館
- 和歌森太郎 1966 「歴史の中の若狭民俗」和歌森太郎編『若狭の民俗』吉川弘文館
- 和歌森太郎 1969a 「序」和歌森太郎編『陸前北部の民俗』吉川弘文館
- 和歌森太郎 1969b 「修験道の浸透」和歌森太郎編『陸前北部の民俗』吉川弘文館
- 和歌森太郎 1970a 『新版日本民俗学』清水弘文堂
- 和歌森太郎 1970b 「津軽民俗の歴史性」和歌森太郎編『津軽の民俗』吉川弘文館
- 渡辺澄夫 1960 「書評と紹介 和歌森太郎編『くにさき』」『日本歴史』143

表1 民俗総合調査メンバー

年度	身分	氏名	所属	担当
昭和33年度 くにさき	代表者	和歌森太郎	東京教育大	総括・史的展望
	研究分担者	直江広治	東京教育大	第3班(年中儀礼=年中行事・農耕儀礼・神社祭祀)
	研究分担者	千葉徳爾	信州大	第1班(経済伝承=生産・消費・交通)
	研究分担者	松岡利夫	山口大	第2班(社会伝承=村制・族制・人生儀礼)
	研究分担者	半田康夫	大分大	第5班(民間信仰・芸能・競技)
	研究分担者	竹田且	東京教育大	第2班(社会伝承=村制・族制・人生儀礼)
	研究分担者	杉本尚雄	熊本大	第4班(仏教文化・伝説・昔話)
	研究分担者	中野幡能	大分県立教育研究所	第4班(仏教文化・伝説・昔話)
	研究分担者	桜井徳太郎	東京教育大	第5班(民間信仰・芸能・競技)
	研究分担者	萩原竜夫	東京学芸大	第2班(社会伝承=村制・族制・人生儀礼)
	研究分担者	千々和実	東京教育大	第4班(仏教文化・伝説・昔話)
	研究分担者	西垣晴次	東京教育大	第5班(民間信仰・芸能・競技)
	研究分担者	亀山慶一	桐朋女子短大	第1班(経済伝承=生産・消費・交通)
	研究協力者	藤原正教	大分県教育委員会	第1班(経済伝承=生産・消費・交通)
	研究協力者	染矢多喜男	大分県立舞鶴高校	第2班(社会伝承=村制・族制・人生儀礼)
	研究協力者	北見俊夫	都立白鷗高校	第3班(年中儀礼=年中行事・農耕儀礼・神社祭祀)
	研究協力者	加藤教功	大分県文化財専門委員	第3班(年中儀礼=年中行事・農耕儀礼・神社祭祀)
	研究協力者	宮原兎一	東京教育大	第3班(年中儀礼=年中行事・農耕儀礼・神社祭祀)
	研究協力者	松岡実	大分県民俗学会	第4班(仏教文化・伝説・昔話)
	研究協力者	宮崎一枝	大分県民俗学会	第4班(仏教文化・伝説・昔話)
	調査補助者	小笹芳友	北海道立岩見沢高校	第1班(経済伝承=生産・消費・交通)
	調査補助者	唐木治夫	東京教育大(学生)	第2班(社会伝承=村制・族制・人生儀礼)
	調査補助者	沢田喜代子	東京教育大(学生)	第3班(年中儀礼=年中行事・農耕儀礼・神社祭祀)
	調査補助者	小野隆子	東京教育大(学生)	第3班(年中儀礼=年中行事・農耕儀礼・神社祭祀)
	調査補助者	宮田登	東京教育大(学生)	第5班(民間信仰・芸能・競技)
	調査補助者	牛島巖	東京教育大(学生)	第5班(民間信仰・芸能・競技)
	調査補助者	重野英司	大分大(学生)	第5班(民間信仰・芸能・競技)
	調査補助者	神崎信博	大分大(学生)	第5班(民間信仰・芸能・競技)
調査補助者	棕野芳郎	大分大(学生)	第5班(民間信仰・芸能・競技)	
調査補助者	矢野真吉	大分大(学生)	第5班(民間信仰・芸能・競技)	
昭和34年度 宇和地帯	代表者	和歌森太郎	東京教育大	第1班(歴史的位置の研究)
	研究分担者	萩原竜夫	東京学芸大	第4班(信仰伝承の研究)
	研究分担者	村上節太郎	愛媛大	第2班(経済伝承の研究)
	研究分担者	千葉徳爾	信州大	第2班(経済伝承の研究)
	研究分担者	亀山慶一	桐朋女子短大	第2班(経済伝承の研究)
	研究分担者	相馬正胤	愛媛大	第2班(経済伝承の研究)
	研究分担者	西垣晴次	東京教育大	第3班(社会伝承の研究)
	研究分担者	竹田且	東京教育大	第3班(社会伝承の研究)
	研究分担者	宮原兎一	東京教育大	第5班(芸能伝承の研究)
	研究分担者	直江広治	東京教育大	第4班(信仰伝承の研究)
	研究分担者	松岡利夫	山口大	第3班(社会伝承の研究)
	研究分担者	桜井徳太郎	東京教育大	第4班(信仰伝承の研究)
	研究分担者	半田康夫	大分大	第5班(芸能伝承の研究)
	研究分担者	肥後和男	東京教育大	第1班(歴史的位置の研究)
	研究協力者	山口常助	愛媛県文化財専門委員	第1班(歴史的位置の研究)
	研究協力者	市原輝士	高松商業高校	第2班(経済伝承の研究)
	研究協力者	北見俊夫	都立白鷗高校	第3班(社会伝承の研究)
	研究協力者	森正史	愛媛民俗学会	第4班(信仰伝承の研究)
	研究協力者	坂田友宏	鳥取西高校	第4班(信仰伝承の研究)
	研究協力者	和田茂樹	愛媛大	第5班(芸能伝承の研究)
	研究協力者	松岡実	大分県民俗学会	第5班(芸能伝承の研究)
	研究協力者	宮崎一枝	大分県民俗学会	第5班(芸能伝承の研究)
	調査補助者	永沢正好	東京教育大(学生)	第2班(経済伝承の研究)
	調査補助者	石井健一	東京教育大(学生)	第3班(社会伝承の研究)
	調査補助者	平山和彦	東京教育大(学生)	第3班(社会伝承の研究)
	調査補助者	横田義彰	東京教育大(学生)	第4班(信仰伝承の研究)
	調査補助者	福田アジオ	東京教育大(学生)	第4班(信仰伝承の研究)
	調査補助者	牛島巖	東京教育大(学生)	第5班(芸能伝承の研究)
調査補助者	渡辺靖雄	東京教育大(学生)	第5班(芸能伝承の研究)	
昭和35年度 西石見	代表者	直江広治	東京教育大	第4班(信仰伝承の研究)
	研究分担者	西垣晴次	東京教育大	第1班(歴史的位置の研究)
	研究分担者	千葉徳爾	信州大	第2班(経済伝承の研究)
	研究分担者	亀山慶一	桐朋学園大	第2班(経済伝承の研究)
	研究分担者	山岡栄市	島根大	第3班(社会伝承の研究)
	研究分担者	松岡利夫	山口大	第3班(社会伝承の研究)
	研究分担者	竹田且	東京教育大	第3班(社会伝承の研究)
	研究分担者	萩原竜夫	東京学芸大	第4班(信仰伝承の研究)
	研究分担者	桜井徳太郎	東京教育大	第4班(信仰伝承の研究)
	研究分担者	半田康夫	大分大	第5班(芸能伝承の研究)
	研究分担者	宮原兎一	東京教育大	第5班(芸能伝承の研究)
	研究協力者	岩谷建三	津和野高校	第1班(歴史的位置の研究)
	研究協力者	岡崎三郎	益田高校	第1班(歴史的位置の研究)
	研究協力者	沖本常吉	防長民俗学会	第2班(経済伝承の研究)
	研究協力者	市原輝士	高松商業高校	第2班(経済伝承の研究)
	研究協力者	北見俊夫	都立白鷗高校	第3班(社会伝承の研究)
	研究協力者	園山繁義	松江高校	第3班(社会伝承の研究)
	研究協力者	森安 章	益田市横田中学校	第3班(社会伝承の研究)
	研究協力者	牛尾三千夫	広島県文化財専門委員	第4班(信仰伝承の研究)
	研究協力者	石塚尊俊	島根県文化財専門委員	第5班(芸能伝承の研究)
	研究協力者	坂田友宏	鳥取西高校	第5班(芸能伝承の研究)
	研究協力者	宮崎一枝	大分県民俗学会	第5班(芸能伝承の研究)
	調査補助者	中丸和伯	東京教育大(学生)	第1班(歴史的位置の研究)
	調査補助者	福田アジオ	東京教育大(学生)	第1班(歴史的位置の研究)

	調査補助者	永沢正好	東京教育大(学生)	第1班(歴史的位置の研究)
	調査補助者	渡辺靖雄	東京教育大(学生)	第2班(経済伝承の研究)
	調査補助者	飯塚三枝子	東京教育大(学生)	第2班(経済伝承の研究)
	調査補助者	布川清司	東京教育大(学生)	第3班(社会伝承の研究)
	調査補助者	石井健一	東京教育大(学生)	第3班(社会伝承の研究)
	調査補助者	平山和彦	東京教育大(学生)	第3班(社会伝承の研究)
	調査補助者	宮田登	東京教育大大学院	第4班(信仰伝承の研究)
	調査補助者	横田義彰	東京教育大(学生)	第4班(信仰伝承の研究)
	調査補助者	川崎公子	東京教育大(学生)	第4班(信仰伝承の研究)
	調査補助者	牛島巖	東京教育大(学生)	第5班(芸能伝承の研究)
	調査補助者	鈴木俊男	東京教育大(学生)	第5班(芸能伝承の研究)
	調査補助者	和田寿彦	山口大(学生)	第3班(社会伝承の研究)
	調査補助者	平田則雄	山口大(学生)	第3班(社会伝承の研究)
	(団長)	和歌森太郎	東京教育大	第1班(歴史的位置の研究)
	代表者	直江広治	東京教育大	第4班(信仰伝承の研究)
	研究分担者	千葉徳爾	信州大	第2班(経済伝承の研究)
	研究分担者	亀山慶一	桐朋学園大	第3班(社会伝承の研究)
	研究分担者	松岡利夫	山口大	第3班(社会伝承の研究)
	研究分担者	竹田且	東京教育大	第3班(社会伝承の研究)
	研究分担者	萩原竜夫	東京学芸大	第4班(信仰伝承の研究)
	研究分担者	桜井徳太郎	東京教育大	第4班(信仰伝承の研究)
	研究分担者	半田康夫	大分大	第5班(芸能伝承の研究)
	研究分担者	宮原兎一	東京教育大	第5班(芸能伝承の研究)
	研究顧問	和歌森太郎	東京教育大	第1班(総括と歴史的研究)
	研究協力者	藤井駿	岡山大	第1班(総括と歴史的研究)
	研究協力者	谷口澄夫	岡山大	第1班(総括と歴史的研究)
	研究協力者	石田寛	岡山大	第2班(経済伝承の研究)
	研究協力者	市原輝士	高松商業高校	第2班(経済伝承の研究)
	研究協力者	鶴藤鹿忠	岡山関西高校	第2班(経済伝承の研究)
	研究協力者	北見俊夫	都立白鷗高校	第3班(社会伝承の研究)
	研究協力者	肥後和男	東京教育大	第4班(信仰伝承の研究)
	研究協力者	西垣晴次	跡見学園	第4班(信仰伝承の研究)
	研究協力者	三浦秀宥	岡山県落合高校	第4班(信仰伝承の研究)
	研究協力者	松岡実	大分県民俗学会	第4班(信仰伝承の研究)
	研究協力者	佐藤米司	岡山朝日高校	第5班(芸能伝承の研究)
	研究協力者	宮崎一枝	大分県民俗学会	第6班(口承文芸の研究)
	研究協力者	坂田友宏	鳥取西高校	第6班(口承文芸の研究)
	研究協力者	有森猛	岡山朝日高校	第6班(口承文芸の研究)
	調査補助者	藤原久子	東京教育大(学生)	第1班(総括と歴史的研究)
	調査補助者	永沢正好	東京教育大(学生)	第2班(経済伝承の研究)
	調査補助者	飯塚三枝子	東京教育大(学生)	第2班(経済伝承の研究)
	調査補助者	平山和彦	東京教育大(学生)	第3班(社会伝承の研究)
	調査補助者	久保田武嗣	東京教育大(学生)	第3班(社会伝承の研究)
	調査補助者	川崎公子	東京教育大(学生)	第3班(社会伝承の研究)
	調査補助者	宮田登	東京教育大大学院	第4班(信仰伝承の研究)
	調査補助者	渡辺靖雄	東京教育大(学生)	第4班(信仰伝承の研究)
	調査補助者	河上一雄	東京教育大(学生)	第4班(信仰伝承の研究)
	調査補助者	加賀ひろ子	東京教育大(学生)	第4班(信仰伝承の研究)
	調査補助者	横田義彰	東京教育大(学生)	第6班(口承文芸の研究)
	調査補助者	鈴木俊男	東京教育大(学生)	第6班(口承文芸の研究)
	調査補助者	花島政三郎	東京学芸大(学生)	第4班(信仰伝承の研究)
	代表者	和歌森太郎	東京教育大	第5班(淡路民俗の歴史性)
	研究分担者	千葉徳爾	信州大	第1班(淡路島の地域性と民俗)
	研究分担者	松岡利夫	山口大	第3班(淡路島民の社会関係)
	研究分担者	竹田且	東京教育大	第3班(淡路島民の社会関係)
	研究分担者	直江広治	東京教育大	第4班(淡路島の文化)
	研究分担者	萩原竜夫	東京学芸大	第4班(淡路島の文化)
	研究分担者	半田康夫	大分大	第4班(淡路島の文化)
	研究分担者	西垣晴次	東京教育大	第4班(淡路島の文化)
	研究分担者	宮原兎一	東京教育大	第4班(淡路島の文化)
	研究分担者	渡辺一郎	東京教育大	不参加
	研究協力者	市原輝士	高松商業高校	第1班(淡路島の地域性と民俗)
	研究協力者	亀山慶一	桐朋学園大	第2班(淡路島民経済の変遷)
	研究協力者	北見俊夫	都立白鷗高校	第2班(淡路島民経済の変遷)
	研究協力者	肥後和男	東京教育大	第4班(淡路島の文化)
	研究協力者	桜井徳太郎	東京教育大	第4班(淡路島の文化)
	研究協力者	佐藤米司	岡山朝日高校	第4班(淡路島の文化)
	研究協力者	波多野和夫	桐朋学園女子高校	第4班(淡路島の文化)
	研究協力者	松岡実	大分県民俗学会	第4班(淡路島の文化)
	研究協力者	西谷勝也	加古川西高校	第4班(淡路島の文化)
	研究協力者	三浦秀宥	岡山県落合高校	第4班(淡路島の文化)
	研究協力者	高谷重夫	大阪春日丘高校	第4班(淡路島の文化)
	研究協力者	有森猛	岡山朝日高校	第4班(淡路島の文化)
	研究協力者	坂田友宏	鳥取西高校	第4班(淡路島の文化)
	研究協力者	宮崎一枝	大分県民俗学会	第4班(淡路島の文化)
	研究協力者	新見貫次	洲本高校	第5班(淡路民俗の歴史性)
	調査補助者	平山和彦	東京教育大大学院	第3班(淡路島民の社会関係)
	調査補助者	花島政三郎	東京教育大(学生)	第3班(淡路島民の社会関係)
	調査補助者	加賀ひろ子	東京教育大(学生)	第3班(淡路島民の社会関係)
	調査補助者	飯塚三枝子	東京教育大(学生)	第3班(淡路島民の社会関係)
	調査補助者	宮田登	東京教育大大学院	第4班(淡路島の文化)
	調査補助者	河上一雄	東京教育大(学生)	第4班(淡路島の文化)
	調査補助者	牛島巖	東京都立大(学生)	第4班(淡路島の文化)
	調査補助者	山路勝彦	東京教育大(学生)	第4班(淡路島の文化)
	調査補助者	中村羊一郎	東京教育大(学生)	第4班(淡路島の文化)
昭和36年度 美作				
昭和37年度 淡路島				

昭和38年度 志摩	調査補助者	横田義彰	東京教育大(学生)	第4班(淡路島の文化)
	代表者	和歌森太郎	東京教育大	第2班(生産調査)、第6班(民俗文化の歴史的位置)
	研究分担者	亀山慶一	桐朋学園大	第2班(生産調査)
	研究分担者	竹田旦	東京教育大	第3班(社会調査)
	研究分担者	千葉徳爾	信州大	第1班(景観調査)
	研究分担者	直江広治	東京教育大	第5班(信仰と意識)
	研究分担者	萩原竜夫	東京学芸大	第4班(儀礼調査)
	研究分担者	半田康夫	大分大	第4班(儀礼調査)
	研究分担者	松岡利夫	山口大	第4班(儀礼調査)
	研究分担者	宮原兎一	東京教育大	第3班(社会調査)
	調査委員	市原輝士	高松商業高校	第1班(景観調査)
	調査委員	牛島巖	東京都立大大学院	第4班(儀礼調査)
	調査委員	北見俊夫	都立白鷗高校	第3班(社会調査)
	調査委員	佐藤米司	岡山県立朝日高校	第4班(儀礼調査)
	調査委員	西垣晴次	東京学芸大付属高校	第5班(信仰と意識)
	調査委員	波多野和夫	桐朋学園女子高校	第2班(生産調査)
	調査委員	平山和彦	東京教育大大学院	第3班(社会調査)
	調査委員	宮崎一枝	大分県民俗学会	第5班(信仰と意識)
	調査委員	宮田登	東京教育大大学院	第5班(信仰と意識)
	調査委員	倉田正邦	伊勢民俗学会	第5班(信仰と意識)
	調査委員	桜井勝之進	神宮司庁	第5班(信仰と意識)
	調査委員	杉本嘉八	三重県教育委員会	第6班(民俗文化の歴史的位置)
	調査委員	堀田吉雄	伊勢民俗学会	第4班(儀礼調査)
補助委員	山路勝彦	東京教育大(学生)	第1班(景観調査)	
補助委員	徳山直子	東京教育大(学生)	第2班(生産調査)	
補助委員	長沼光照	東京教育大(学生)	第3班(社会調査)	
補助委員	松岡謙一郎	東京学芸大(学生)	第4班(儀礼調査)	
昭和39年度 若狭	代表者	直江広治	東京教育大	第3班(伝承的日常態)
	研究分担者	亀山慶一	桐朋学園大	第3班(伝承的日常態)
	研究分担者	桜井徳太郎	東京教育大	第5班(村落生活のリズム)
	研究分担者	竹田旦	東京教育大	第2班(家族と村落)
	研究分担者	千葉徳爾	信州大	第1班(若狭民俗の地域性と歴史性)・第3班(伝承的日常態)
	研究分担者	西垣晴次	東京教育大・東京学芸大付属高校	第5班(村落生活のリズム)
	研究分担者	萩原竜夫	東京学芸大	第5班(村落生活のリズム)
	研究分担者	松岡利夫	山口大	第4班(家の行事)
	研究分担者	宮原兎一	東京教育大	第3班(伝承的日常態)
	研究分担者	和歌森太郎	東京教育大	第1班(若狭民俗の地域性と歴史性)
	調査委員	市原輝士	高松工芸高校	第3班(伝承的日常態)
	調査委員	牛島巖	東京都立大大学院	第5班(村落生活のリズム)
	調査委員	河上一雄	東京教育大大学院	第2班(家族と村落)
	調査委員	北見俊夫	都立白鷗高校	第1班(若狭民俗の地域性と歴史性)
	調査委員	佐藤米司	岡山県立朝日高校	第4班(家の行事)
	調査委員	波多野和夫	桐朋学園女子高校	第3班(伝承的日常態)
	調査委員	花島政三郎	東京教育大大学院	第2班(家族と村落)
	調査委員	福田アジオ	静岡県立掛川東高校	第3班(伝承的日常態)
	調査委員	宮田登	東京教育大大学院	第3班(伝承的日常態)
	調査委員	斉藤槻堂	福井県文化財専門委員・同県医師会	第4班(家の行事)
	協力委員	杉原丈夫	福井大学芸学部	
	協力委員	石井左近	敦賀市八幡神社宮司	
	協力委員	苅田益二	小浜市上中中学校長	
	協力委員	小林一男	美浜町耳農協新庄支所	
	協力委員	武田久二	美浜町小浜電報電話局	
	協力委員	河原富太郎	三方町農業	
	協力委員	永江秀雄	上中町上中町農協	
	協力委員	窪田治	上中町上中町教育委員	
	協力委員	西亀太郎	名田庄村同村役場	
	協力委員	山口久三	大飯町日枝神社宮司	
	協力委員	三谷銀治	大飯町農業	
	協力委員	桜井帯刀	高浜町高浜郵便局	
	補助委員	宮部則子	東京教育大(学生)	第1班(若狭民俗の地域性と歴史性)
補助委員	石崎正興	東京教育大(学生)	第2班(家族と村落)	
補助委員	高原三枝子	東京教育大(学生)	第2班(家族と村落)	
補助委員	小橋静子	東京教育大(学生)	第2班(家族と村落)	
補助委員	徳山直子	東京教育大(学生)	第3班(伝承的日常態)	
補助委員	篠宮はる子	東京教育大(学生)	第3班(伝承的日常態)	
補助委員	高橋克章	東京教育大(学生)	第3班(伝承的日常態)	
補助委員	山田栄子	東京女子大(学生)	第5班(村落生活のリズム)	
補助委員	上田春美	桐朋学園大(学生)	第5班(村落生活のリズム)	
昭和40年度	代表者	和歌森太郎	東京教育大	第1班(歴史性と地域性)・第5班(村落生活のリズム)
	研究分担者	大塚徳郎	宮城教育大	第1班(歴史性と地域性)
	研究分担者	生江義男	桐朋学園大	第1班(歴史性と地域性)
	研究分担者	千葉徳爾	愛知大	第1班(歴史性と地域性)・第3班(伝承的日常態)
	研究分担者	竹田旦	東京教育大	第2班(家族と村落)
	研究分担者	宮原兎一	千葉大	第4班(家の行事)
	研究分担者	北見俊夫	都立白鷗高校・東京教育大	第1班(歴史性と地域性)
	研究分担者	亀山慶一	桐朋学園大	第3班(伝承的日常態)
	研究分担者	堀一郎	東京大	第3班(伝承的日常態)
	研究分担者	松岡利夫	山口大	第4班(家の行事)
	研究分担者	直江広治	東京教育大	第3班(伝承的日常態)
	研究分担者	桜井徳太郎	東京教育大	第3班(伝承的日常態)
	研究分担者	萩原竜夫	明治大	第5班(村落生活のリズム)
	研究分担者	波多野和夫	桐朋学園大	第3班(伝承的日常態)
	調査委員	加藤章	お茶の水女子大付属高校	第1班(歴史性と地域性)
	調査委員	平山和彦	明治大	第2班(家族と村落)
	調査委員	福田アジオ	東京教育大大学院	第2班(家族と村落)

陸前北部	調査委員	河上一雄	都立東高	第2班(家族と村落)
	調査委員	市原輝士	高松工芸高校	第3班(伝承的日常態)
	調査委員	宮田登	東京教育大	第3班(伝承的日常態)
	調査委員	楠正弘	東北大	第3班(伝承的日常態)
	調査委員	岡田照子		第3班(伝承的日常態)
	調査委員	月光善弘	山形女子短大	第3班(伝承的日常態)
	調査委員	三崎一夫	東北民俗の会	第3班(伝承的日常態)
	調査委員	西垣晴次	東京学芸大付属高校	第5班(村落生活のリズム)
	調査委員	上田春美		第5班(村落生活のリズム)
	調査委員	佐藤米司	岡山県立朝日高校	第5班(村落生活のリズム)
	補助委員	紙谷威広		第1班(歴史性と地域性)
	補助委員	西村浩一		第2班(家族と村落)
	補助委員	高原三枝子		第3班(伝承的日常態)
	補助委員	石崎正興		第3班(伝承的日常態)
補助委員	高橋明美		第3班(伝承的日常態)	
補助委員	真野俊和		第5班(村落生活のリズム)	
補助委員	内田州昭		第5班(村落生活のリズム)	
昭和41年度 津軽	代表者	和歌森太郎	東京教育大	第1班(津軽民俗の歴史性と地域性)
	研究分担者	千葉徳爾	愛知大	第1班(津軽民俗の歴史性と地域性)
	研究分担者	竹田旦	東京教育大	第2班(家族と村落)
	研究分担者	宮原兎一	千葉大	第2班(家族と村落)
	研究分担者	楠正弘	東北大	第3班(基層文化の系統)
	研究分担者	亀山慶一	桐朋学園大	第3班(基層文化の系統)
	研究分担者	松岡利夫	山口大	第4班(家の行事)
	研究分担者	堀一郎	東京大	第5班(信仰習俗)
	研究分担者	直江広治	東京教育大	第5班(信仰習俗)
	研究分担者	桜井徳太郎	東京教育大	第5班(信仰習俗)
	研究分担者	萩原竜夫	明治大	第5班(信仰習俗)
	研究分担者	波多野和夫	桐朋学園大	第5班(信仰習俗)
	研究分担者	華園聴麿	聖和学園短大	第3班(基層文化の系統)
	研究分担者	宮田登	東京教育大	第5班(信仰習俗)
	研究分担者	大塚徳郎	宮城教育大	第1班(津軽民俗の歴史性と地域性)
	調査委員	高橋秀夫	秋田工業高専	第1班(津軽民俗の歴史性と地域性)
	調査委員	平山和彦	東京教育大大学院	第2班(家族と村落)
	調査委員	小笹芳友	東京学芸大付属高校	第2班(家族と村落)
	調査委員	福田アジオ	東京教育大大学院	第2班(家族と村落)
	調査委員	市原輝士	高松工芸高校	第3班(基層文化の系統)
	調査委員	北見俊夫	都立白鷗高校	第3班(基層文化の系統)
	調査委員	森山泰太郎	弘前中央高校	第4班(家の行事)
	調査委員	江田絹子		第5班(信仰習俗)
	調査委員	河上一雄	東京都立東高校	第5班(信仰習俗)
	調査委員	西垣晴次	東京学芸大付属高校	第5班(信仰習俗)
	調査委員	進藤幸彦	本郷学園高校	第5班(信仰習俗)
	調査委員	佐藤米司	岡山児島高校	第5班(信仰習俗)
	補助委員	宮本袈婆雄		第1班(津軽民俗の歴史性と地域性)
	補助委員	津田信勝		第1班(津軽民俗の歴史性と地域性)
	補助委員	中山和芳		第2班(家族と村落)
	補助委員	宮崎俊也		第2班(家族と村落)
	補助委員	白井宏明		第2班(家族と村落)
	補助委員	岩崎一行		第2班(家族と村落)
	補助委員	大石孝		第5班(信仰習俗)
補助委員	喜多村正		第5班(信仰習俗)	
補助委員	鳥越皓之		第5班(信仰習俗)	
補助委員	中村千鶴子		第5班(信仰習俗)	
補助委員	高橋明美		第5班(信仰習俗)	
補助委員	真野俊和		第5班(信仰習俗)	
補助委員	内田州昭		第5班(信仰習俗)	
昭和42年度 津軽	代表者	和歌森太郎	東京教育大	第1班(津軽民俗の歴史性と地域性)
	研究分担者	千葉徳爾	愛知大	第1班(津軽民俗の歴史性と地域性)
	研究分担者	大塚徳郎	宮城教育大	第1班(津軽民俗の歴史性と地域性)
	研究分担者	竹田旦	東京教育大	第2班(家族と村落)
	研究分担者	宮原兎一	千葉大	第2班(家族と村落)
	研究分担者	楠正弘	東北大	第3班(基層文化の系統)
	研究分担者	亀山慶一	桐朋学園大	第3班(基層文化の系統)
	研究分担者	松岡利夫	山口大	第4班(家の行事)
	研究分担者	直江広治	東京教育大	第5班(信仰習俗)
	研究分担者	桜井徳太郎	東京教育大	第5班(信仰習俗)
	研究分担者	萩原竜夫	明治大	第5班(信仰習俗)
	研究分担者	波多野和夫	桐朋学園大	第5班(信仰習俗)
	研究分担者	宮田登	東京教育大	第5班(信仰習俗)
	調査委員	高橋秀夫	秋田工業高専	第1班(津軽民俗の歴史性と地域性)
	調査委員	平山和彦	東京教育大大学院	第2班(家族と村落)
	調査委員	小笹芳友	東京学芸大付属高校	第2班(家族と村落)
	調査委員	福田アジオ	東京教育大大学院	第2班(家族と村落)
	調査委員	市原輝士	高松工芸高校	第3班(基層文化の系統)
	調査委員	北見俊夫	都立白鷗高校	第3班(基層文化の系統)
	調査委員	森山泰太郎	弘前中央高校	第4班(家の行事)
	調査委員	河上一雄	東京都立東高校	第5班(信仰習俗)
	調査委員	江田絹子		第5班(信仰習俗)
	調査委員	西垣晴次	東京学芸大付属高校	第5班(信仰習俗)
	調査委員	進藤幸彦	本郷学園高校	第5班(信仰習俗)
調査委員	佐藤米司	岡山児島高校	第5班(信仰習俗)	

\* 太字は研究分担者

\* 名前の掲載順序は報告書記載順

表2 民俗総合調査 調査先一覧

年度	調査地域名称	調査先	市町村数	備考
昭和33年度	くにさき	速見郡(日出町)・杵築市・東国東郡(武蔵町・安岐町・国東町・国見町・姫島村・竹田津町)・西国東郡(香々地町・真玉町・大田村)・豊後高田市	2市2郡、計12市町村	
昭和34年度	宇和地帯	宇和島市・北宇和郡(吉田町・三間町・広見町・松野町・日吉村・津島町・宇和海村)・南宇和郡(内海村・御荘町・城辺町・一本松村・西海町)	1市2郡、計13町村	東宇和郡宇和町との混同を避けるため、調査地域名称を「宇和地帯」とする。
昭和35年度	西石見	益田市・鹿足郡(津和野町・日原町・柿ノ木村・六日市町)・美濃郡(美都町・匹見町)・那賀郡(三隅町・弥栄村・金城村・旭町)	1市3郡、計11市町村	那賀郡のうち国府町は除く。
昭和36年度	美作	津山市・苫田郡(阿波村・加茂町・上斎原村・奥津村・富村・鏡野町)・真庭郡(新庄村・美甘村・川上村・八束村・中和村・湯原町・勝山町・久世町・落合町)・久米郡(久米町・中央町・久米南町・柵原町・福渡町・旭町)	1市3郡、計22市町村	
昭和37年度	淡路島	洲本市・三原郡(三原町・緑町・南淡町・西淡町)・津名郡(津名町・五色町・一宮町・北淡町・淡路町・東浦町)	1市2郡、計11市	淡路島全島
昭和38年度	志摩	鳥羽市・志摩郡(磯部町・阿児町・浜島町・大王町・志摩町)	1市1郡、計6市町	
昭和39年度	若狭	敦賀市・小浜市・三方郡(美浜町・三方町)・遠敷郡(上中町・名田庄村)・大飯郡(大飯町・高浜町)	2市3郡、計8市町	旧若狭国全域と越前国敦賀郡(敦賀市)
昭和40年度	陸前北部	石巻市・気仙沼市・桃生郡(桃生町・河北町・河南町・鳴瀬町・矢本町・北上町・雄勝町)・牡鹿郡(牡鹿町・稲井町・女川町)・本吉郡(津山町・唐桑町・志津川町・本吉町・歌津町)	2市3郡、計17市町	調査地域を総括する地域名は存在しないため、検討の末に陸前北部となる。仙北は秋田県仙北郡と紛らわしく、陸前海岸では範囲が広すぎ、北陸前は北陸の前と速断する者がいた。
昭和41年度	津軽	青森市・五所川原市・東津軽郡(今別町・蟹田町・蓬田村・平館村・三厩村)・西津軽郡(木造町・鱒ヶ沢町・森田村・稲垣村・車力村)・北津軽郡(中里町・金木町・市浦村・小泊村)	2市3郡、計16市町村	津軽半島とは、おおむね青森市と西津軽郡鱒ヶ沢町を結ぶ線以北の市町村を指すものとする。